

1. 校務DX計画

	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学校における業務のデジタル化	保護者との連絡について一部デジタル化している学校もある。児童生徒への連絡をクラウドサービスを用いた配信をるところまでにははいたっていない。	デジタル化の事例収集、活用方法検討		活用方法の情報発信		
学校設置者における業務のデジタル化	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程を定めていない。	校務事務の在り方検討WG	デジタル化に向けた規程の検討・整備	県の新システムの導入に併せて新ワークフローで運用		
次世代の校務デジタル化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムを令和7年度から導入する予定である。	市町村システムとの統合を含めた県の新システム検	県の新システム導入・運用			
生成AIの校務での活用	生成AIを校務で活用している職員はいない。今後の活用については周囲の状況を勘案しながら導入について検討をしていく。	生成AIについての事例収集、活用方法検討	活用方法の情報発信			
クラウド環境を活用した校務DXの推進	教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで使用できる環境を令和7年度以降、整えていくよう検討している。	次期ネットワークの在り方検討	次期ネットワーク設計	ネットワークの最適化・運用		
			次期ネットワーク構成に合わせた教員用端末の	次期教員用端末の配置・運用		
Fax・押印の原則廃止、ペーパーレス化、不必要な手入力作業の一掃	Faxを使用しない、保護者・外部とのやりとりで押印・署名を求めない、職員会議等の資料のペーパーレス化等については、周囲の状況を勘案しながら徐々に進めていく。	事例収集と解決策の検討		活用方法の情報発信		

2. 期待される効果

<p>校務で利用する各種システムの活用により校務の効率化が進み、教育データを活用した児童生徒への指導や支援が充実する。</p> <p>①統合型校務支援システムなど、校務で利用する各種システムの活用により、校務が効率化され、教員の校務事務が最適化している。</p> <p>②教員は、校務データや学習データ等の効率的・効果的な活用により、個々の児童生徒にきめ細かな指導や支援を行っている。</p>
--